

4. 各種プロジェクト

4.1 Hitotsubashi University Global Education Program(HGP)

国際教育交流センターは、大学内外の機関やセンターと連携し、さまざまなプロジェクトに取り組んでいる。以下では、そうしたプロジェクトの一つとして、Hitotsubashi University Global Education Program (以下 HGP) について報告する。なお、2018 年度秋冬学期より、HGP は全学共通教育センターの国際交流科目部門と本センターが協力して実施している。

1. Hitotsubashi University Global Education Program (HGP)

2010 年度に発足した HGP は、学生の国際的な視野を涵養するため、社会科学分野における学際的な科目を英語で提供する教育プログラムである。HGP は、(1) 全学共通教育センターの開講する国際交流科目、(2) 英語による全学共通教育科目、(3) 英語による各学部の学部教育科目の 3 種の科目で構成され、日本人学生はもとより、各国の協定校からの交換留学生を含む全ての一橋大学生が履修することができる(資料 1)。

全学共通教育センターの国際交流科目部門は、教務課の支援を得ながら①HGP の中核となる国際交流科目(英語による日本事情及び社会科学関係科目、日本語初級科目及び英語による科目を受講するために必要なスキルを身につけるための科目)の企画立案及び運営、②各学部・研究科から提供される英語による社会科学関連科目のとりまとめ及びグローバルスタンダードに準拠した科目群の体系化、③HGP に関する国内外への情報発信、④日本人学生及び協定校からの交換留学生向けに英語による HGP のガイダンス、履修相談会の提供、⑤交換留学生及び日本語・日本文化研修留学生(国費留学生)の履修登録セッションの開催、加えて、⑥HGP 科目履修促進のため(特に日本人学生を対象として)、さまざまな学問分野からゲストスピーカーを招いての公開講演「HGP セミナー」等の企画・運営を行っている。2019 年度の本部門における活動実績と自己評価を以下の通りまとめる。

1.1 HGP の開講科目数—資料 2、3

2019 年度、HGP は全体で 134 科目(昨年度比+7:以下同様に括弧内の数字は昨年度比を示す)を開講した。そのうち、①英語で行われる科目が 113 科目(+7)で、②日本語教育科目は 21 科目(±0)であった。①の内訳は、国際教育センター開講の国際交流科目が 26 科目(-3)、他学部等からの提供科目は、全学共通教育科目が 3 科目(+3)、商学部が 23 科目(+2)、経済学部が 40 科目(+7)、法学部が 10 科目(±0)、社会学部が 11 科目(-2)であった。②の日本語教育科目は、国際交流科目として 21 科目(±0)を開講した。

前年度との違いは、国際交流科目、社会学部が提供する科目は減少したが、全学共通教育センター、商学部が提供する科目、経済学部が提供する科目が増加したことにより、HGP

の科目が全体で7科目増加した。全学共通教育センターが2年ぶりに、Seminar on Humanities や Special Topics in Liberal Arts を新設し、HGP に提供してくれたことは大きかった。

1.2 HGP の科目担当教員数（所属別）－資料4

HGP 科目を担当した教員（非常勤講師や客員教授を含む）は91名（昨年度比+12）であった。その内訳は、国際教育交流センター（センター兼任の各研究科専任教員を含む）が25名（+2）、全学共通教育センターが2名（±0）、4研究科（経営管理、経済学、法学、社会学）60名（+6）であった。国際教育センター所属教員25名の内訳は、7名が専任教員、18名が非常勤講師となっている。なお、上記の数字は、1つの科目を複数の教員が担当している場合もヘッドカウントしている。

1.3 HGP の学生向け説明会

HGP の学生向け説明会を2019年度は計6回実施した。その内訳は、両学期開始時の留学生オリエンテーションにおいて新入留学生向けに各1回（計2回）、また日本人学生を含む在学学生を対象としたものを春夏学期3回、秋冬学期1回（計4回）実施した。

2019（H31・R1）年度 HGP 説明会実施一覧

開催イベント名	開催日	時間
HGP 説明会 （留学生オリエンテーション）	2019年3月29日(金)	14:30-15:30
	2019年9月9日(月)	10:30-11:30
HGP 説明会（正規生対象）	2019年4月9日(火)	12:30-13:15
	2019年4月11日(木)	
	2019年4月15日(月)	
	2019年9月16日(月)	

1.4 交換留学生と日本語・日本文化研修留学生（日研生）に対する履修登録支援

交換留学生と日研生に対する履修登録ガイダンスを、各学期開始時の留学生オリエンテーションの際に、HGP 説明会とセットで実施した。また、交換留学生向けの学部別履修相談会も実施し、各学部の学部教育委員および留学生担当教員が出席し履修に関する指導・相談を行った。併せて、国際交流科目と日本語教育科目のブースも設け、交換留学生と日研生の履修に関する質問を一度に対応できるようにしている。

2019年度から履修登録は交換留学生や日研生を含めすべて CELS で行うこととなった。それに併せて教務課が CELS の操作に関するガイダンスを実施してくれた。

1.5 HGP セミナーの実施

国際交流セミナー、国内交流セミナーの支援を受け、2019年度はHGPセミナーを以下の通り2回実施した。本セミナーは、英語による講義をトライアルで聴講できる機会を学生に提供しており、参加者からは好評を得ている。

2019 (H31・R1)年度 HGP セミナー一覧

講演タイトル	開催日	講演者
Introduction to Intercultural Leadership Skills	2019年7月5日(金)	Jon James Lynch CEO, K.K. J-Global
Reporting on Natural Disasters on Online Media	2019年12月2日(月)	Hitoshi Ogi News Editor, J-CAST NEWS

1.6 その他関連データ（交換留学生等数）－資料5-1、5-2

交換留学生は継続して増加していたが、2019年度は前年度より若干減少した。大学院レベルの交換留学生は増加しているが、学部レベルも含めると年度内の受入人数合計は、前年度比-1名の212名であった。

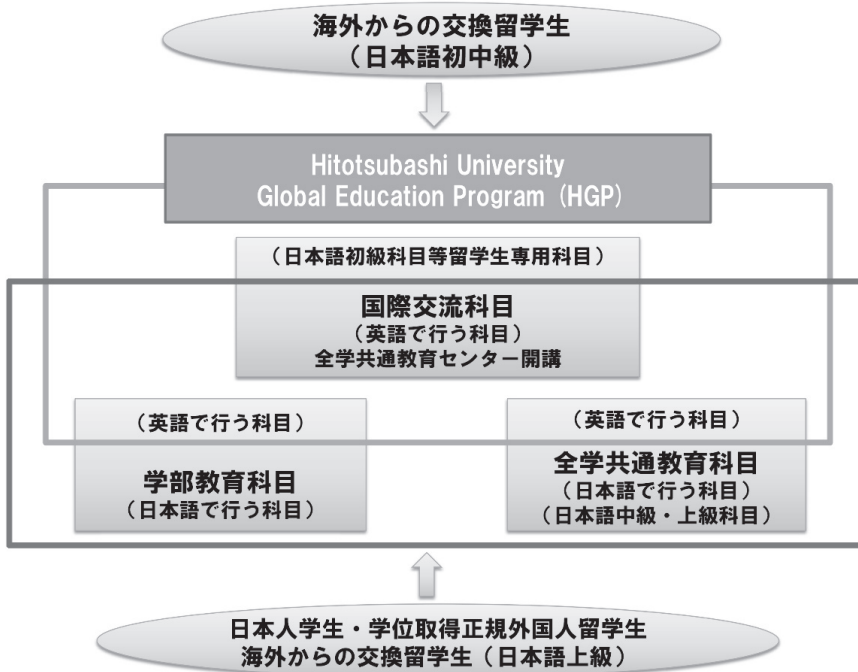
- 学生交流協定校数（2020年3月31日現在）：大学間 81校（前年同期比+5）
部局間 26校（前年同期比±0）
- 春夏学期・学部レベル交換留学生等数：113名（+3）※
- 春夏学期・大学院レベル交換留学生数：22名（±0）
- 秋冬学期・学部レベル交換留学生等数：112名（-10）※
- 秋冬学期・大学院レベル交換留学生数：18名（+2）
- 2019年度 春夏・秋冬学期受入れ交換留学生の合計：212名（-1）

※ 上記交換留学生等数には日本語日本文化研修生を含む。

* JASSOの海外留学支援制度（協定受入）により、2019年度の春夏学期は12名、秋冬学期は16名、合計28名の交換留学生に奨学金が支給された。その他、一橋大学後援会インバウンド奨学金を12名の交換留学生が受給した。

（資料1）

HGP の科目構成と学生の履修に関する概念図



HGP 科目種別一覧

種類	対象者	科目種別	教授言語
①	全学生	日本事情・世界事情関係科目	英語
②	全学生	社会科学分野の専門科目	英語
③	英語を母語としない学生	英語で行われる授業を受ける為に必要なスキルを身に着けるための科目	英語
④	留学生	日本語教育科目、日本語日本文化特別科目	日本語
⑤	正規課程学生	短期海外研修	英語・日本語

HGP			
一橋大学全学生対象	英語を母語としない学生対象	留学生対象	正規課程学生対象
①	②	③	④
教授言語 英語		教授言語 日本語	短期 海外研修

4. 各種プロジェクト

(資料2)

HGP 開講科目数一覧

科目種別		2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
英語で 行われる科目	国際交流科目	21	27	29	29	29	29	30	28	29	26
	全学共通教育センター	3	2	1	1	1	1	1	0	0	3
	商学部	7	6	7	7	23	25	22	25	21	23
	経済学部	6	5	5	27	37	37	40	37	33	40
	法学部	2	3	3	6	6	8	10	12	10	10
	社会学部	1	2	3	3	3	6	10	12	13	11
	小計	40	45	48	73	99	106	113	114	106	113
日本語教育科目	国際交流科目	8	10	7	19	19	19	19	16	21	21
	全学共通教育科目	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	18	15	7	19	19	19	19	16	21	21
開講科目数	合計	58	60	55	92	118	125	132	130	127	134
履修者数	夏学期 小計	327	288	401	768	931	1,100	1,200	※	1,271	1,020
	冬学期 小計	198	330	426	640	894	1,279	1,288	※	1,457	1,160
	夏・冬 合計	525	618	827	1,408	1,825	2,379	2,488	※	2,728	2,180

※2017年度の履修者数データは正確でないおそれがあるため掲載せず

(資料3)

HGP 科目区分別 開講科目一覧

英語で行われる科目

国際交流科目

学期	科目名	副題	単位数	備考
春夏	Explore Japan	-	2	センター専任
春夏	Japanese Culture B	Japanese Business Culture	2	センター専任
春夏	Japanese Management B	Fundamental Structure and Management Philosophy	2	非常勤講師
春夏	Japanese Business A	Global Business and Japan	2	非常勤講師
春夏	World Affairs D	International Relations: Current Affairs	2	非常勤講師
春夏	World Affairs E	International Business	2	非常勤講師
春夏	World Affairs F	World Affairs on Film	2	非常勤講師
春夏	Special Topics in Social Sciences D	Human Resource Management	2	非常勤講師
秋冬	Explore Japan	-	2	センター専任
秋冬	Japanese Art B	-	2	非常勤講師
秋冬	Japanese Culture A	Intercultural Communication	2	センター専任
秋冬	Japanese Education A	Comparative Education	2	センター専任
秋冬	Japanese Management A	Real Management through Case Studies	2	非常勤講師
秋冬	Japanese Business B	Present and Future of Automobile Industry	2	非常勤講師
秋冬	Japanese Business C	Media and Business	2	非常勤講師
秋冬	Japanese Economy A	Financial Crises and Monetary Policy	2	非常勤講師
秋冬	Special Topics in Social Sciences A	Journalism in Japan	2	非常勤講師
秋冬	Special Topics in Social Sciences C	E-commerce and Strategic Business	2	非常勤講師
秋冬	World Affairs A	International Relations: An Analytical Overview	2	非常勤講師
秋冬	World Affairs B	Global-Business and Persons	2	非常勤講師
秋冬	World Affairs C	The Media and World Affairs	2	非常勤講師
春夏	Special Topics in Liberal Arts	Representations of East-Asia in Contemporary Western Literature and Cinema	2	全学共通教育センター
秋冬	Seminar on Humanities	Contemporary Women's Writing in Japan	2	全学共通教育センター
秋冬	Seminar on Humanities	Reading Contemporary Japanese Fiction in Translation	2	全学共通教育センター
春夏	Academic English I	TOEFL Preparation	2	全学共通教育センター
春夏	Academic Writing in English I	-	2	全学共通教育センター
春夏	Presentation Skills in English I	-	2	全学共通教育センター
秋冬	Academic Writing in English II	-	2	全学共通教育センター
秋冬	Presentation Skills in English II	-	2	全学共通教育センター

計 29 科目

4. 各種プロジェクト

商学部科目

学期	科目名	副題	単位数	備考
春夏	Shibusawa Scholar Seminar I	-	2	SSP学生・交流学生対象 (その他学生不可)
春夏	Interactive Course on Business Basics (Management)	-	2	SSP学生・交流学生対象 (その他学生不可)
夏	Interactive Course on Business Basics (Finance)	-	2	SSP学生・交流学生対象 (その他学生不可)
春	Introduction to Global Leadership	-	2	
春	Intermediate Course in Marketing	-	2	
春	Intermediate Course in Accounting	-	2	
夏	Special Topics on Management C	-	2	
春	Special Topics on Management E	-	2	
夏	Special Topics on Management F	-	2	
夏	Special Topics on Management H	-	2	
春夏	Special Lecture	International Comparison of Innovation A	2	大学院共修
秋冬	Shibusawa Scholar Seminar II	-	2	SSP学生・交流学生対象 (その他学生不可)
秋	Interactive Course on Business Basics (Marketing)	-	2	SSP学生・交流学生対象 (その他学生不可)
秋冬	Interactive Course on Business Basics (Accounting)	-	2	SSP学生・交流学生対象 (その他学生不可)
秋	Intermediate Course in Management	-	2	
冬	Intermediate Course in Finance	-	2	
冬	Advanced Course in Marketing	-	2	
秋	Advanced Course in Accounting	-	2	
冬	Advanced Course in Finance	-	2	
秋	Special Topics on Management A	-	2	大学院共修
冬	Special Topics on Management B	-	2	大学院共修
冬	Special Topics on Management D	-	2	大学院共修
冬	Special Topics on Management G	-	2	大学院共修

計 23 科目

経済学部科目

学期	科目名	副題	単位数	備考
春夏	Introductory Microeconomics	-	4	
春夏	Advanced Microeconomics	-	4	大学院共修
春夏	Advanced Macroeconomics	-	4	大学院共修
春夏	Intermediate Econometrics	-	4	大学院共修
春	Statistics I	-	2	
夏	Statistics II	-	2	
春	Topics in Econometrics A	-	2	大学院共修
夏	Industrial Economics II	-	2	
春	Advanced Industrial Economics I	-	2	大学院共修
春	Public Economics I	-	2	大学院共修
夏	Public Economics II	-	2	大学院共修
夏	Contemporary Public Policy A	-	1	大学院共修
夏	Methods of Area Studies	-	2	大学院共修
夏	Applied Microeconomics D	-	2	大学院共修
春	Advanced Development Economics D	-	2	大学院共修
春夏	Special Seminar (MARTCHEV Milen) A	-	2	
春夏	Special Seminar (TAKAHASHI Hidenori) A	-	2	
春夏	Introductory Seminar (MARTCHEV Milen) A	-	2	
春夏	Introductory Seminar (SAGA Yumi) A	-	2	
春夏	Selected Topics in Economics D	-	2	
春	Special Lecture E	-	2	
春	Special Lecture (Behavioral Topics)	-	2	大学院共修
秋冬	Advanced Econometrics	-	4	大学院共修
冬	Economic Mechanisms I	-	2	大学院共修
冬	Topics in Econometrics B	-	2	大学院共修
秋	Applied Economic Policy Analysis	-	2	
秋	Advanced International Economics I	-	2	大学院共修
秋	Advanced Labor Economics I	-	2	大学院共修
冬	Advanced Environmental Economics I	-	2	大学院共修
秋	Monetary and Financial Economics BI	-	2	
冬	Monetary and Financial Economics BII	-	2	
冬	Advanced Japanese Economy	-	2	大学院共修
冬	Applied Microeconomics E	-	2	大学院共修
冬	Advanced Development Economics E	-	2	大学院共修
秋	Comparative Economic Development A	-	2	大学院共修
冬	Comparative Economic Development B	-	2	大学院共修
秋冬	Special Seminar (Milen Martchev) B	-	2	
秋冬	Introductory Seminar (Milen Martchev) B	-	2	
秋冬	Introductory Seminar (SAGA Yumi) B	-	2	
秋冬	Selected Topics in Economics E	-	2	

計 40 科目

4. 各種プロジェクト

法学部科目

学期	科目名	副題	単位数	備考
春	Anglo-American Private Law	-	2	
夏	Case Study on International Political Economy	-	2	
夏	EU Law	-	2	
秋冬	Introduction to Japanese Law	-	2	大学院共修
秋冬	Comparative Law	-	2	大学院共修
秋冬	Japan and International Relations	-	2	
秋冬	Global Governance	-	2	
秋冬	Case Study on International Security	-	2	
秋冬	International Relations in Asia-Pacific	-	2	
秋冬	Case Study on International History	-	2	

計 10 科目

社会学部科目

学期	科目名	副題	単位数	備考
夏	Cultural Anthropology	-	2	
春夏	Topics of Modern and Contemporary History A	-	2	大学院共修
春	Seminar on Global Issues I	-	2	大学院共修
夏	Topics in Global Studies II A	-	2	大学院共修
冬	Anthropology, Politics, and Development	-	2	大学院共修
秋	Topics in Global Studies I A	-	2	
秋冬	Topics in Social Sciences II	-	2	
冬	Topics in Social Sciences III	-	2	
秋	Seminar on Global Issues II	-	2	大学院共修
冬	Topics in Global Studies II B	-	2	大学院共修
冬	Statistics for Social Sciences	-	2	大学院共修

計 11 科目

合計 113 科目

日本語教育科目

国際交流科目

学期	科目名	副題	単位数	備考
春夏	Basic Japanese I	-	5	
春夏	Basic Japanese II	-	5	
春夏	Introduction to Japanese Language A	-	3	
春夏	Introduction to Japanese Language B	-	3	
春夏	Intermediate Japanese I A	-	1	
春夏	Intermediate Japanese I B	-	1	
春夏	Intermediate Japanese I C	-	1	
春夏	Intermediate Japanese II	-	2	
春夏	Pre-Advanced Japanese	-	2	
春夏	Lecture for MEXT Japanese Studies Students II	-	2	
春夏	Seminar for MEXT Japanese Studies Students B	-	2	
秋冬	Basic Japanese I	-	5	
秋冬	Basic Japanese II	-	5	
秋冬	Introduction to Japanese Language A	-	3	
秋冬	Introduction to Japanese Language B	-	3	
秋冬	Intermediate Japanese I A	-	1	
秋冬	Intermediate Japanese I B	-	1	
秋冬	Intermediate Japanese I C	-	1	
秋冬	Intermediate Japanese II	-	2	
秋冬	Pre-Advanced Japanese	-	2	
秋冬	Lecture for MEXT Japanese Studies Students I	-	2	

計 21 科目

4. 各種プロジェクト

Course List for Hitotsubashi University Global Education Program 2019-20
(2019-20 HGP 開講科目一覧)

Legends

Offered Term	P	Spring Quarter	春学期	Offered Term	A	Autumn Quarter	秋学期
	S	Summer Quarter	夏学期		W	Winter Quarter	冬学期
	Z	Spring-Summer Term	春夏学期		K	Autumn-Winter Term	秋冬学期

[Medium of Instruction]	JPN	Japanese	日本語
	ENG	English	英語
[Offered by]	GE	General Education Courses	全学共通教育科目
	CM	Faculty of Commerce and Management	商学部
	E	Faculty of Economics	経済学部
	L	Faculty of Law	法学部
	SS	Faculty of Social Sciences	社会学部
	CGE	Center for Global Education	国際交流科目(国際教育センター)
[Notes]	△	Graduate-level Courses (open to undergraduate students but need permission of an instructor)	学部と大学院の必修科目(学部生の履修には、教員の許可が必要)
	*	Offered to Exchange Students (including MEXT Japanese Studies Students) only	交流学生のみ履修可能
	#	Offered to International Students (Degree-seeking and Exchange Students including MEXT Japanese Studies Students) only	留学生のみ履修可能
	+	Offered to MEXT Japanese Studies Students only	日研生のみ履修可能
	○	Not offered to the First-Year Students in all Faculties	全学部一年生履修不可
	♣	Offered to Degree-Seeking Students only	学位取得学生のみ履修可能
	☆	Offered to the Second-Year Students of the Shibusawa Scholarship Program (SSP) in the Faculty of Commerce and Management (CM) and all Exchange Students (including MEXT Japanese Studies Students) only - [Global Leadership Program (GLP) Courses]	GLP科目一浪沢スカラシッププログラム(SSP)2年生と交流学生(日研生を含む)のみ履修可能
	★	Offered to the Third- and Fourth-Year Degree-Seeking Students in all Faculties and all Exchange Students (including MEXT Japanese Studies Students) only. (Some of the Second-Year SSP Students can take this course under some conditions - Consult with the Educational Affairs Division) - [GLP Courses]	GLP科目一全学部3年生以上および交流学生が履修可能(一部SSP2年生が履修可能な科目があるため、個別に問い合わせること)
	□	Offered to the Third- and Fourth-Year of the SSP, the Third- and Fourth-Year Degree-seeking Students in the Faculty of CM, and all Exchange Students (including MEXT Japanese Studies Students) only - [GLP Courses]	GLP科目一3年生以上のSSP学生・商学部生と交流学生(日研生を含む)のみ履修可能
	◆	Offered to the Third- and Fourth-Year Degree-Seeking Students in all Faculties and all Exchange Students (including MEXT Japanese Studies Students) only	全学部3年生以上と交流学生(日研生を含む)のみ履修可能(2年生以下履修不可)
●	Offered to the First-Year (winter) and Second-Year Degree-seeking Students in the Faculty of Social Sciences, and all Exchange students (including MEXT Japanese Studies Students) only	社会学部1年生(冬学期)および2年生と交流学生(日研生を含む)のみ履修可能	
Others	TBD	To Be Determined	後日発表

Japanese & World Affairs

Course Title	Subtitle	Offered Term	Day	Period	Medium of Instruction	Credits	Offered by	Instructor(s)	Notes
Explore Japan		Z	Thu	3,4	ENG	2	CGE	ABE, Jin	*
Japanese Culture B	Japanese Business Culture	Z	Fri	5	ENG	2	CGE	OTA, Hiroshi	
Japanese Management B	Fundamental Structure and Management Philosophy	Z	Tue	3	ENG	2	CGE	KAWASAKI/MORI	
Japanese Business A	Global Business and Japan	Z	Mon	3	ENG	2	CGE	UEYAMA, Shuichiro	
World Affairs D	International Relations: Current Affairs	Z	Fri	3	ENG	2	CGE	PETTMAN, Ralph	
World Affairs E	International Business	Z	Wed	4	ENG	2	CGE	FRANCO, Ed	
World Affairs F	World Affairs on Film	Z	Thu	3	ENG	2	CGE	PETTMAN, Ralph	
Special Topics in Social Sciences D	Human Resource Management	Z	Tue	4	ENG	2	CGE	FRANCO, Ed	
Explore Japan		K	Thu	3,4	ENG	2	CGE	ABE, Jin	*
Japanese Art B		K	Fri	3	ENG	2	CGE	KUBO, Yutaka	
Japanese Culture A	Intercultural Communication	K	Mon	5	ENG	2	CGE	OTA, Hiroshi	
Japanese Education A	Comparative Education	K	Tue	5	ENG	2	CGE	OTA, Hiroshi	
Japanese Management A	Real Management through Case	K	Tue	3	ENG	2	CGE	KAWASAKI/MORI	
Japanese Business B	Present and Future of Automobile Industry	K	Mon	4	ENG	2	CGE	NADACHI/SHINDO	
Japanese Business C	Media and Business	K	Tue	4	ENG	2	CGE	NISHIOKA, Sachiko	
Japanese Economy A	Financial Crises and Monetary Policy	K	Fri	4	ENG	2	CGE	NUNAMI, Tadashi	
Special Topics in Social Sciences A	Journalism in Japan	K	Fri	4	ENG	2	CGE	IRVINE, Robert	
Special Topics in Social Sciences C	E-commerce and Strategic Business	K	Wed	4	ENG	2	CGE	FRANCO, Ed	
World Affairs A	International Relations: An Analytical Overview	K	Thu	3	ENG	2	CGE	PETTMAN, Ralph	
World Affairs B	Global-Business and Persons	K	Mon	3	ENG	2	CGE	UEYAMA, Shuichiro	
World Affairs C	The Media and World Affairs	K	Fri	3	ENG	2	CGE	PETTMAN, Ralph	

Humanities

Course Title	Subtitle	Offered Term	Day	Period	Medium of Instruction	Credits	Offered by	Instructor(s)	Notes
Special Topics in Liberal Arts	Representations of East-Asia in Contemporary Western Literature and Cinema	Z	Thu	3,4	ENG	2	CGE	ORISE, Marie	*
Seminar on Humanities	Contemporary Women's Writing in Japan	K	Wed	2	ENG	2	CGE	NAKAI, Asako	*
Seminar on Humanities	Reading Contemporary Japanese Fiction in Translation	K	Thu	3	ENG	2	CGE	KAWAMOTO, Reiko	*

Business

Course Title	Course Names of Previous Years	Offered Term	Day	Period	Medium of Instruction	Credits	Offered by	Instructor(s)	Notes
Shibusawa Scholar Seminar I		Z	Mon	4	ENG	2	CM	AHMADJIAN, Christina	☆
Interactive Course on Business Basics (Management)		Z	Wed	5	ENG	2	CM	MALEN, Joel B.	☆
Interactive Course on Business Basics (Finance)		S	Mon,Thu	2	ENG	2	CM	WEN, Min-Ming	☆
Introduction to Global Leadership		P	Tue,Fri	4	ENG	2	CM	AHMADJIAN, Christina	□
Intermediate Course in Marketing		P	Mon,Thu	3	ENG	2	CM	TAGASHIRA, Takumi	★
Intermediate Course in Accounting		P	Mon,Thu	1	ENG	2	CM	ROUTLEDGE, James	★
Special Topics on Management C		S	Mon,Thu	3	ENG	2	CM	WEN, Min-Ming	★
Special Topics on Management E		P	Tue,Fri	3	ENG	2	CM	TAGASHIRA, Takumi	★
Special Topics on Management F		S	Mon,Thu	1	ENG	2	CM	FUKUKAWA, Kyoko	★
Special Topics on Management H		S	Mon,Thu	2	ENG	2	CM	Soo Young KWON	★
Special Lecture	International Comparison of Innovation A	Z	Wed	3	ENG	2	CM	ELSABRY EI Hassan	△★
Shibusawa Scholar Seminar II		K	Mon	4	ENG	2	CM	AHMADJIAN, Christina	☆
Interactive Course on Business Basics (Marketing)		A	Mon,Thu	3	ENG	2	CM	FUKUKAWA, Kyoko	☆
Interactive Course on Business Basics (Accounting)		K	Thu	5	ENG	2	CM	SASA/TOMONO/YANO/OZAWA/TANABE	☆
Intermediate Course in Management		A	Mon,Thu	2	ENG	2	CM	EGAWA, Masako	★
Intermediate Course in Finance		W	Tue, Fri	4	ENG	2	CM	WEN, Min-Ming	★
Advanced Course in Marketing		W	Mon,Thu	3	ENG	2	CM	TAGASHIRA, Takumi	★
Advanced Course in Accounting		A	Tue, Fri	2	ENG	2	CM	ROUTLEDGE, James	★
Advanced Course in Finance		W	Tue, Fri	2	ENG	2	CM	WEN, Min-Ming	★
Special Topics on Management A		A	Mon,Thu	2	ENG	2	CM	ROUTLEDGE, James	△★
Special Topics on Management B		W	Tue, Fri	2	ENG	2	CM	ROUTLEDGE, James	△★
Special Topics on Management D		W	Tue, Fri	3	ENG	2	CM	WEN, Min-Ming	△★
Special Topics on Management G		W	Mon,Thu	2	ENG	2	CM	LI, Ran	△★

4. 各種プロジェクト

Economics

Course Title	Course Names of Previous Years	Offered Term	Day	Period	Medium of Instruction	Credits	Offered by	Instructor(s)	Notes
Introductory Microeconomics		Z	Tue, Fri	1	ENG	4	E	CATAMBAY, Danielle	
Advanced Microeconomics		Z	Mon, Thu	2	ENG	4	E	TAKEOKA, Norio	△
Advanced Macroeconomics		Z	Tue, Fri	3	ENG	4	E	JINNAI/TAKAYAMA	△
Intermediate Econometrics		Z	Tue, Fri	2	ENG	4	E	YAMAMOTO, Yohei	△
Statistics I		P	Mon, Thu	3	ENG	2	E	HONDA, Toshio	
Statistics II		S	Mon, Thu	3	ENG	2	E	HONDA, Toshio	
Topics in Econometrics A		P	Tue, Fri	1	ENG	2	E	KUROZUMI, Eiji	△
Industrial Economics II		S	Mon, Thu	1	ENG	2	E	TAKAHASHI, Hidenori	
Advanced Industrial Economics I		P	Mon, Thu	1	ENG	2	E	TAKAHASHI, Hidenori	△
Public Economics I		P	Mon, Thu	1	ENG	2	E	TAKEUCHI, Kan	△
Public Economics II		S	Mon, Thu	1	ENG	2	E	TAKEUCHI, Kan	△
Contemporary Public Policy A		S	INTENSIVE	INT	ENG	1	E	YAMASHIGE, Shinji	△
Methods of Area Studies		S	Mon, Thu	2	ENG	2	E	MANO, Yukichi	△
Applied Microeconomics D		S	Tue, Fri	3	ENG	2	E	MORITA, Hodaka	△
Advanced Development Economics D		P	Mon, Thu	1	ENG	2	E	TESHIMA, Kensuke	△
Special Seminar (MARTCHEV Milen) A		Z	Wed	2	ENG	2	E	MARTCHEV, Milen	
Special Seminar (TAKAHASHI Hidenori) A		Z	Tue	1	ENG	2	E	TAKAHASHI, Hidenori	
Introductory Seminar (MARTCHEV Milen) A		Z	Wed	1	ENG	2	E	MARTCHEV, Milen	
Introductory Seminar (SAGA Yumi) A		Z	Wed	2	ENG	2	E	SAGA, Yumi	
Selected Topics in Economics D		Z	Tue	1	ENG	2	E	MARTCHEV, Milen	
Special Lecture E		P	Mon, Thu	4	ENG	2	E	LAU, Maximilian	
Special Lecture (Behavioral Topics)		P	Tue, Fri	4	ENG	2	E	CATAMBAY, Danielle	△
Advanced Econometrics		K	Tue, Fri	2	ENG	4	E	KUROZUMI, Eiji	△
Economic Mechanisms I		W	INTENSIVE	INT	ENG	2	E	YOSHIIHARA, Naoki	△
Topics in Econometrics B		W	Mon, Thu	2	ENG	2	E	SAWADA, Masayuki	△
Applied Economic Policy Analysis		A	Mon, Thu	1	ENG	2	E	TAKAHASHI, Hidenori	
Advanced International Economics I		A	Mon, Thu	2	ENG	2	E	SUGITA, Yoichi	△
Advanced Labor Economics I		A	Mon, Thu	4	ENG	2	E	TANAKA, Mari	△
Advanced Environmental Economics I		W	Mon, Thu	3	ENG	2	E	YOKOO, Hidefumi	△
Monetary and Financial Economics BI		A	Mon, Wed	2	ENG	2	E	KANO, Takashi	
Monetary and Financial Economics BII		W	Mon, Wed	2	ENG	2	E	KANO, Takashi	
Advanced Japanese Economy		W	Mon, Thu	2	ENG	2	E	TOMIURA, Eiichi	△
Applied Microeconomics E		W	Mon, Thu	2	ENG	2	E	YAMAMOTO, Yuichi	△
Advanced Development Economics E		W	Mon, Thu	2	ENG	2	E	Guenwoo, Lee	△
Comparative Economic Development A		A	Tue, Fri	3	ENG	2	E	MORIGUCHI, Chiaki	△
Comparative Economic Development B		W	Mon, Thu	3	ENG	2	E	Debin, Ma	△
Special Seminar (Milen Martchev) B		K	Wed	2	ENG	2	E	Milen, Martchev	
Introductory Seminar (Milen Martchev) B		K	Wed	1	ENG	2	E	Milen, Martchev	
Introductory Seminar (SAGA Yumi) B		K	Wed	2	ENG	2	E	SAGA, Yumi	
Selected Topics in Economics E		K	Tue	1	ENG	2	E	Milen, Martchev	

Law

Course Title	Course Names of Previous Years	Offered Term	Day	Period	Medium of Instruction	Credits	Offered by	Instructor(s)	Notes
Anglo-American Private Law		P	Mon, Thu	4	ENG	2	L	MIDDLETON, John	
Introduction to Japanese Law		K	Fri	5	ENG	2	L	HARAGUCHI, Yoshiaki	△
Comparative Law		K	Thu	5	ENG	2	L	ZHOU, Yuan	△

International Relations

Course Title	Course Names of Previous Years	Offered Term	Day	Period	Medium of Instruction	Credits	Offered by	Instructor(s)	Notes
Case Study on International Political Economy		S	INTENSIVE	INT	ENG	2	L	AOONO, Toshihiko	
EU Law		S	INTENSIVE	INT	ENG	2	L	NAKANISHI, Yumiko	
Japan and International Relations		K	Thu	3	ENG	2	L	MIMAKI, Seiko	
Global Governance		K	Fri	2	ENG	2	L	AKIYAMA, Nobumasa	
Case Study on International Security		K	Wed	5	ENG	2	L	SUKEGAWA, Yasushi	
International Relations in Asia-Pacific		K	Mon	5	ENG	2	L	SATAKE, Tomohiko	
Case Study on International History		K	Mon, Thu	1	ENG	2	L	AOONO, Toshihiko	

Sociology

Course Title	Course Names of Previous Years	Offered Term	Day	Period	Medium of Instruction	Credits	Offered by	Instructor(s)	Notes
Cultural Anthropology		S	Mon, Thu	4	ENG	2	SS	TAGUCHI, Yoko	○
Topics of Modern and Contemporary History A		Z	Thu	3	ENG	2	SS	NAKANO, Satoshi	△◆
Seminar on Global Issues I		P	Wed	3,4	ENG	2	SS	Steven, Witt	△◆
Topics in Global Studies II A		S	Wed	3,4	ENG	2	SS	Steven, Witt	△◆
Anthropology, Politics, and Development		W	Mon, Thu	4	ENG	2	SS	TAGUCHI, Yoko	△◆
Topics in Global Studies I A		A	Tue, Fri	1	ENG	2	SS	AKAMINE, Jun	○
Topics in Social Sciences II		K	Fri	4	ENG	2	SS	SANADA, Yasuhiro	○
Topics in Social Sciences III		W	INTENSIVE	INT	ENG	2	SS	NAKANO, Satoshi	○
Seminar on Global Issues II		A	Wed	3,4	ENG	2	SS	DIEGO, HOLSTEIN	△◆
Topics in Global Studies II B		W	Wed	3,4	ENG	2	SS	DIEGO, HOLSTEIN	△◆
Statistics for Social Sciences		W	INTENSIVE	INT	ENG	2	SS	WATANABE, Kohei	△◆

Academic Skills in English

Course Title	Subtitle	Offered Term	Day	Period	Medium of Instruction	Credits	Offered by	Instructor(s)	Notes
Academic English I	TOEFL Preparation	Z	Wed	1	ENG	2	CGE	MANCUSO, John	
Academic Writing in English I		Z	Tue	5	ENG	2	CGE	MANCUSO, John	
Presentation Skills in English I		Z	Tue	1	ENG	2	CGE	MANCUSO, John	
Academic Writing in English II		K	Tue	5	ENG	2	CGE	MANCUSO, John	
Presentation Skills in English II		K	Tue	1	ENG	2	CGE	MANCUSO, John	

Japanese Language

Course Title	Course Names of Previous Years	Offered Term	Day	Period	Medium of Instruction	Credits	Offered by	Instructor(s)	Notes
Basic Japanese I		Z	Mon-Fri	2	JPN	5	CGE	HAYAKAWA/TANAKA/FUKUJOKA/SUGIMOTO	#
Basic Japanese II		Z	Mon-Fri	1	JPN	5	CGE	MATSUITANAKA/FUKUJOKA/SUGIMOTO	#
Introduction to Japanese Language A		Z	Mon, Tue, Fri	1	JPN	3	CGE	MATSUI/HAYAKAWA	#
Introduction to Japanese Language B		Z	Mon, Wed, Fri	1	JPN	3	CGE	HAYAKAWA/MATSUI	#
Intermediate Japanese I A		Z	Wed	2	JPN	1	CGE	MATSUI, Sakiko	#
Intermediate Japanese I B		Z	Thu	1	JPN	1	CGE	WU, Rija	#
Intermediate Japanese I C		Z	Thu	2	JPN	1	CGE	WU, Rija	#
Intermediate Japanese II		Z	Tue, Fri	1+2, Fri	JPN	2	CGE	HAYAKAWA/MATSUI	#
Pre-Advanced Japanese		Z	Tue, Fri	3	JPN	2	CGE	HAYAKAWA/MURAKAMI	#
Lecture for MEXT Japanese Studies Students II		Z	Tue	2	JPN	2	CGE	Ota, Yoko	+
Seminar for MEXT Japanese Studies Students B		Z	Mon	4	JPN	2	CGE	IORI, Isao	+
Basic Japanese I		K	Mon-Fri	2	JPN	5	CGE	HAYAKAWA/TANAKA/FUKUJOKA/SUGIMOTO	#
Basic Japanese II		K	Mon-Fri	1	JPN	5	CGE	TSOY/TANAKA/SUZUKI/HAYAKAWA	#
Introduction to Japanese Language A		K	Mon, Wed, Fri	2	JPN	3	CGE	YANAGIDA/OTA, Y	#
Introduction to Japanese Language B		K	Mon, Thu, Fri	1	JPN	3	CGE	HAYAKAWA/SUGIMOTO	#
Intermediate Japanese I A		K	Mon	1	JPN	1	CGE	TSOY, Ekaterina	#
Intermediate Japanese I B		K	Thu	1	JPN	1	CGE	WU, Rija	#
Intermediate Japanese I C		K	Thu	2	JPN	1	CGE	WU, Rija	#
Intermediate Japanese II		K	Wed, Fri	1	JPN	2	CGE	TSOY/HAYAKAWA	#
Pre-Advanced Japanese		K	Tue, Fri	2	JPN	2	CGE	HAYAKAWA/MURAKAMI	#
Lecture for MEXT Japanese Studies Students I		K	Tue	2	JPN	2	CGE	OTA, Yoko	+

HGP offers introductory to intermediate-level Japanese language courses. There are many other Japanese language courses available in upper-intermediate

to advanced levels. For other courses, please refer to:

<http://international.hit-u.ac.jp/ip/courses/japanese/index.html> (in Japanese)

<http://international.hit-u.ac.jp/en/courses/japanese/index.html> (in English)

4. 各種プロジェクト

Seminar (演習・共通ゼミ) taught in Japanese

Course Title	Course Names of Previous Years	Offered Term	Day	Period	Medium of Instruction	Credits	Offered by	Instructor(s)	Notes
Seminar on Majoring Subject		Z	-	-	JPN	2	CGE	-	
Seminar on Majoring Subject		K	-	-	JPN	2	CGE	-	

Short-Term Global Training Courses (短期海外研修) for Degree-Seeking Students ONLY

Course Title (ENG)	Course Title (JPN)	Offered Term	Day	Period	Medium of Instruction	Credits	Offered by	Instructor(s)	Notes
Short-Term Global Training (in conjunction with Chinese University of Hong Kong)	短期海外研修 (夏期・香港中文大学)	S	NTENSME	INT	JPN	6	CGE	TAGUCHI/OTA.H	♣
Short-Term Global Training (in conjunction with Monash University, Australia)	短期海外研修 (夏期・モナッシュ大学・グローバル・プロフェッショナル・プログラム)	S	NTENSME	INT	JPN	6	CGE	AKIBA, Hiroko	♣
Short-Term Global Training (in conjunction with Berge y Cia, Spain)	短期海外研修 (春期・スペイン企業派遣)	W	NTENSME	INT	JPN	7	CGE	ABE/MANCUSO	♣
Short-Term Global Training (in conjunction with Singapore Management University, University of Technology Malaysia)	短期海外研修 (春期・シンガポール経営大学・マレーシア工科大学)	W	NTENSME	INT	JPN	4	CGE	AKIBA/TAGUCHI	♣

(資料4)

HGP 担当教員数(所属別)

種別	人数									
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国際教育交流センター専任教員 (センター兼任の専任教員を含む)	11	9	9	8	9	9	9	9	7	7
国際教育交流センター 非常勤講師	18	21	23	18	17	18	17	16	16	18
全学共通教育センター教員	4 (専1,非3)	4 (専1,非3)	1 (専1)	1 (専1)	1 (専1)	1 (専1)	1 (専1)	1 (専1)	2 (専2)	2 (専2)
情報基盤センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
各研究科所属教員 (各学部の客員教授・非常勤講師含む)	18	18	23	43	51	59	61	75	54	60
合計	52	52	56	70	78	87	88	101	79	87

(資料5-1)

学生交流協定校一覧

大学間学生交流協定締結機関

国・地域		相手先機関	締結年月	2020年5月1日現在		
				交換留学生枠数 年間	学期間	
アジア	中国	北京師範大学	2016.5	2	4	
		中国政法大学	2018.9	2	4	
		吉林大学	2010.12	2	4	
		南京大学	2016.6	2	4	
		北京大学	2009.12	2	4	
		中国人民大学	2009.9	2	4	
		上海財経大学	2010.1	2	4	
		西南政法大學	2018.9	2	4	
		香港中文大學	2010.9	4	8	
		香港大学	1994.2	2	4	
		清華大学	2012.11	1	2	
		インドネシア	インドネシア大学	2015.7	1	2
			高麗大学	2015.7	2	4
		韓国	ソウル大学	1999.3	3	6
	西江大学		2009.6	2	4	
	成均館大学		2009.7	2	4	
	マレーシア	延世大学	2014.3	2	4	
		マラヤ大学	2015.3	1	2	
	フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	2019.2	2	4	
	シンガポール	シンガポール経営大学	2010.8	2	4	
台湾	国立政治大学	2009.8	2	4		
	国立台北大学	2009.7	2	4		
	国立台湾大学	2016.7	4	8		
タイ	タマサート大学	2010.3	3	6		
ベトナム	ハノイ貿易大学	2015.10	2	4		
北米	カナダ	マギル大学	1994.5	2	4	
		ブリティッシュ・コロンビア大学	2004.1	2	4	
		ヨーク大学	2011.7	※1		
	米国	テュレーン大学フリーマン・ビジネススクール	2020.3	3	6	
		カリフォルニア大学	1997.4	※2		
		ハワイ大学マノア校	2015.4	2	4	
		ミシガン大学教養学部	2014.7	2	4	
		ミネソタ大学	2011.1	3	6	
		オレゴン大学	2017.7	2	4	
		ペンシルヴァニア大学教養学部	2014.4	2	4	
		ペンシルヴァニア大学ウォートン校	2014.5	1	2	
		ヴァージニア大学	2017.4	2	4	
中南米	1	メキシコ	メキシコ大学院大学(エル・コレヒオ・デ・メヒコ)	2009.12	2	4
欧州	オーストリア	ウィーン大学	2013.7	1	2	
		ウィーン経済大学	2010.7	2	4	
	ベルギー	ゲント大学	2014.6	4	8	
		ルーヴェン・カトリック大学	2019.7	8	16	
	デンマーク	オーフス大学商学・社会科学院	2015.6	2	4	
		コペンハーゲン経済大学	2011.1	4	8	
	フィンランド	アールト大学経営学院	2010.8	4	8	
		社会科学高等研究院	2018.8	5	10	
	フランス	HEC経営大学院	1993.3	2	4	
		パリ政治学院	1999.10	4	8	
		パリ・ドファイヌ大学	2018.6	2	4	
		トゥールーズ第1キャピトル大学	2018.9	5	10	
	ドイツ	パリ第一大学パンテオン・ソルボンヌ	2012.11	4	8	
		ハイデルベルク大学	2001.1	2	4	
		フンボルト大学	2009.4	2	4	
		ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン	2013.4	2	4	
		オスナブリュック大学	1998.4	3	6	
		ケルン大学	2000.4	3	6	
マンハイム大学		1997.10	3	6		
ボッコーニ大学		2008.3	2	4		
イタリア		トレント大学	2009.12	2	4	
		エラスムス大学ロッテルダム経済学部	1994.2	3	6	
オランダ	マーストリヒト大学人文社会科学院	2015.4	1.5	3		

4. 各種プロジェクト

		ロシア	ロモノソフ・モスクワ国立総合大学	2014.10	2	4
		スペイン	バルセロナ自治大学	2016.3	2	4
			マドリード・コンプルテンセ大学	2010.1	2	4
			ライムドウス・ルルス大学ESADEロースクール	2019.12	2	4
			ボンペウ・ファブラ大学	2018.2	2	4
		スウェーデン	ストックホルム経済大学	1998.1	1	2
		スイス	ザンクトガレン大学	2016.10	2	4
		英国	ニューカッスル大学	2009.11	3	6
			ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	2013.6	3	6
			パーミンガム大学	1994.4	4	8
			ケンブリッジ大学アジア・中東研究学部	2019.2	2	4
			グラスゴー大学	2010.11	2	4
			ロンドン大学アジア・アフリカ研究院	2009.6	3	6
			マンチェスター大学人文学部	2009.7	2	4
			オーストラリア国立大学	1992.2	1	2
オセアニア	6	オーストラリア	モナシュ大学	2009.11	2	4
			メルボルン大学	1994.3	5	10
			ニューイングランド大学	2019.11	2	4
			ニューサウスウェールズ大学	2016.4	2	4
			クイーンズランド大学	1995.2	2	4
計	81				192.5	375

※1 交流人数の指定なし。交流数が同数になるよう毎年見直し・調整。

※2 FTE30名、ただし、1年での受入は上限20名。半年の受け入れは0.66人として扱う

部局間学生交流協定締結機関

国・地域	相手先機関	部門(一橋大学)	締結年月	2020年5月1日現在 交換留学生枠数		
				年間	学期間	
アジア	中国	華東師範大学中国語文学系	2017.3	1	2	
		復旦大学中国語文学系	2011.4	2	2	
		中国人民大学法学院	2017.6	5	2	
		中国人民大学公共管理学院	2018.11	1	2	
		上海财经大学国际文化交流学院	2008.4	2	2	
		清華大学法学院	2019.8	1	2	
	韓国	高麗大学ビジネススクール	商学部/経営管理研究科経営管理専攻	2018.1	2	4
		釜山大学法科大学	法学研究科	2008.6	3	2
		ソウル大学社会科学カレッジ政治外交学部	法学研究科	2011.4	2	4
	台湾	国立台湾大学法律学院	法学研究科	2017.7	5	2
	タイ	東儀大学外国語文学院	言語社会研究科	2015.4	2	4
		チュアロンコン大学商学・会計学院	商学部/経済学部	2015.7	2	4
カリフォルニア大学ヘイスティングス・ロースクール		法学研究科	2009.5	2	4	
北米	米国	ミネソタ大学カールソン・スクール・オブ・マネジメント	商学部/経済学部	2015.7	2	4
		サウスカロライナ大学ダーラム・ムーア・スクール・オブ・ビジネス	商学部/経済学部	2014.6	2	2
		ワシントン大学経済学部	経済学部	2015.11	2	4
		ルンペン・カトリック大学人文学部および社会科学部	法学研究科/国際・公共政策教育部	2018.9	2	4
欧州	ベルギー	ブリュッセル自由大学ソルヴェイ経済・経営学院	商学部/経済学部	2016.9	2	4
		エセック・ビジネススクール	商学部/経営管理研究科経営管理専攻/経済学部/経済学	2016.11	4	4
	フランス	ボワティエ大学法学・社会科学部	研究科	2016.10	1	2
		マーストリヒト大学人文社会科学部	法学部/法学研究科	2015.4	1	2
	オランダ	フローニンゲン大学経済・経営学部	国際・公共政策教育部	2016.2	2	4
		ルンデン大学経済・経営学部	商学部/経済学部	2014.7	1	2
	スイス	ローザンヌ大学経済・経営学院	商学部/経営管理研究科経営管理専攻/経済学部/経済学	2015.8	2	4
		ザンクトガレン大学経済政治学研究科	研究科	2019.1	2	2
	英国	キングス・カレッジ・ロンドン経営・ビジネス学部	国際・公共政策教育部	2017.2	2	4
計	26			43	58	

(資料5-2)

交流学生等在籍状況一覧

交流学生等在籍者数

区分	日研生*	大学間協定**				部局間協定		合計	合計内訳	
		学部		大学院		学部	院		学部	院
在留資格	留学	留学	日本国籍保持者または留学以外の在留資格	留学	日本国籍保持者または留学以外の在留資格	留学				
2009年夏学期 在籍者数	10	15	4	5	1	0	2	37	29	8
2009年冬学期 在籍者数	8	21	4	7	3	0	4	47	33	14
2010年夏学期 在籍者数	8	26	3	6	1	0	0	44	37	7
2010年冬学期 在籍者数	10	34	9	10	2	0	1	66	53	13
2011年夏学期 在籍者数	9	12	1	0	0	0	1	23	22	1
2011年冬学期 在籍者数	7	37	1	6	0	0	1	52	45	7
2012年夏学期 在籍者数	7	39	1	8	0	0	0	55	47	8
2012年冬学期 在籍者数	12	37	4	10	0	0	0	63	53	10
2013年夏学期 在籍者数	12	41	1	6	0	0	0	60	54	6
2013年冬学期 在籍者数	14	43	3	10	0	0	0	70	60	10
2014年夏学期 在籍者数	14	51	3	8	0	0	0	76	68	8
2014年冬学期 在籍者数	15	52	3	8	0	2	2	82	72	10
2015年夏学期 在籍者数	15	55	3	3	0	0	0	76	73	3
2015年冬学期 在籍者数	14	60	3	18	0	0	2	97	77	20
2016年夏学期 在籍者数	14	60	4	11	0	0	0	89	78	11
2016年冬学期 在籍者数	8	64	5	22	0	0	2	101	77	24
2017年春夏学期 在籍者数	8	72	12	16	0	0	1	109	92	17
2017年秋冬学期 在籍者数	10	91	7	18	0	0	0	126	108	18
2018年春夏学期 在籍者数	10	92	8	22	0	0	0	132	110	22
2018年秋冬学期 在籍者数	11	107	4	16	0	0	0	138	122	16
2019年春夏学期 在籍者数	11	88	7	22	0	7	0	135	113	22
2019年秋冬学期 在籍者数	4	93	2	18	0	13	0	130	112	18

2020年6月23日現在

4. 各種プロジェクト

交流学生等入学年度別人数内訳

入学期間 (自)	在学期間 (至)	日研生*		大学間協定**						合計	年度 別合計	在籍者数の 対象期間	
		大使館 推薦	大学 推薦	学部		大学院		部局間協定					
				留学	日本国籍保持者または留学以外の在留資格	留学	日本国籍保持者または留学以外の在留資格	学部	院				
2008年10月	2009年9月	7	3	12	2	2	1	0	1	28			
2009年4月	2009年9月	/	/	1	1	0	0	0	1	3	47		2009年夏学期
	2010年3月	/	/	2	1	3	0	0	0	6			2009年冬学期
2009年10月	2009年3月	/	/	4	1	2	0	0	4	11			
	2010年9月	5	3	15	2	2	0	0	0	27			
2010年4月	2010年9月	/	/	6	0	1	0	0	0	7	73		2010年夏学期
	2011年3月	/	/	5	1	3	1	0	0	10			
2010年10月	2011年3月	/	/	10	1	6	1	0	1	19			2010年冬学期
	震災の影響で 2011年3月迄に夏受	1	0	7	6	1	0	0	0	15			
2011年4月	2011年9月	/	/	7	2	12	1	0	0	22	52		2011年夏学期
	2012年3月	/	/	0	0	0	0	0	0	0			
2011年10月	2012年3月	/	/	0	0	0	0	0	1	1			2011年冬学期
	2012年9月	6	1	13	0	1	0	0	0	14			
2012年4月	2012年9月	/	/	6	1	24	1	5	0	37	77		2012年夏学期
	2013年3月	/	/	12	0	2	0	0	0	14			
2012年10月	2013年3月	/	/	3	0	1	0	0	0	4			2012年冬学期
	2013年9月	8	4	12	4	4	0	0	0	20			
2013年4月	2013年9月	/	/	8	4	22	0	5	0	39	86		2013年夏学期
	2014年3月	/	/	15	1	0	0	0	0	16			
2013年10月	2014年3月	/	/	4	0	1	0	0	0	5			2013年冬学期
	2014年9月	10	4	19	2	2	0	0	0	23			
2014年4月	2014年9月	/	/	20	1	7	0	0	0	42	112		2014年夏学期
	2015年3月	/	/	28	1	1	0	0	0	30			
2014年10月	2015年3月	/	/	3	1	0	0	0	0	4			2014年冬学期
	2015年9月	10	5	21	0	6	0	2	2	31			
2015年4月	2015年9月	/	/	28	2	2	0	0	0	47	125		2015年夏学期
	2016年3月	/	/	26	1	1	0	0	0	28			
2015年10月	2016年3月	/	/	1	0	0	0	0	0	1			2015年冬学期
	2016年9月	10	4	29	1	12	0	0	2	44			
2016年4月	2016年9月	/	/	30	2	6	0	0	0	52	134		2016年夏学期
	2017年3月	/	/	26	2	5	0	0	0	33			
2016年10月	2017年3月	/	/	4	0	0	0	0	0	4			2016年冬学期
	2017年9月	6	2	32	2	16	0	0	1	51			
2017年4月	2017年9月	/	/	28	3	6	0	0	1	46	183		2017年春夏学期
	2018年3月	/	/	39	8	10	0	0	0	57			
2017年9月	2018年3月	/	/	5	1	0	0	0	0	6			2017年秋冬学期
	2018年9月	10	0	52	3	12	0	0	0	67			
2018年4月	2018年9月	/	/	34	3	6	0	0	0	53	213		2018年春夏学期
	2019年3月	/	/	54	5	16	0	0	0	75			
2018年9月	2019年3月	/	/	4	0	0	0	0	0	4			2018年秋冬学期
	2019年9月	10	1	71	3	10	0	0	0	84			
2019年4月	2019年9月	/	/	32	1	6	0	0	0	50	212		2019年春夏学期
	2020年3月	/	/	51	6	16	0	7	0	80			
2019年9月	2020年3月	/	/	4	0	0	0	0	0	4			2019年秋冬学期
	2020年9月	3	1	54	2	15	0	13	0	84			

2020年6月23日現在

*日研生(日本語・日本文化研修生)の在留資格は「留学」で、受入期間は毎年10月1日(後期)より1年間となっている。

**授業料相互不徴収枠外の交流学生も含む。

4.2 日本語添削チューターワークショップ

国際教育交流センターは、大学内外の機関やセンターと連携し、さまざまなプロジェクトに取り組んでいる。以下では、そうしたプロジェクトの一部として、日本語添削チューターワークショップ（留学生・海外留学相談室部門）について報告する。

1. チューター制度の見直しとワークショップの背景

2019年度、国際教育交流センター、留学生・海外留学相談室（以下、相談室）では、外国人留学生向けチューター制度の見直しを行った。なかでも教育上の新しい試みとして、チューター向けの「日本語添削ワークショップ（以下、WS）」を実施した（6月4日、7月9日、7月23日、10月16日の計4回開催）。

従来、チューター活動の開始時には、相談室（2019年度からは教務課教務第三係）で留学生とチューター向けの個別オリエンテーションを実施していた。しかし、そこでの説明は事務手続きやチューター活動上のルール（活動場所や支援項目の説明）に重点が置かれており、チューターの具体的な仕事内容（どこまで、どのように添削や執筆指導を行うのか）についてのガイダンスは十分ではなかった。また、チューター活動中に問題があれば随時相談室に来るように伝えてはいたものの、活動中のスキルアップや活動後に振り返りを行う体系的な機会は用意されていなかった。そこで、これまでチューター同士が個別に培ってきた経験やスキルを共有し、チュータリングの質を向上させることを目的に、WSを開始した。第1回と2回は、今後のWSの方向性を模索するため、試験的にチューター経験者と教員の計4名で実施した。第3回は周囲のチューターや教員に声かけをし、第4回はメーリングリストやポスターを用いて全学的に参加を呼びかけた。

以下では、今年度の取り組みを紹介し、今後の課題を整理する。

2. ワークショップの概要

・第1回 日本語添削ワークショップ（2019年6月4日）

参加者：チューター経験者計3名、留学生専門教育教員1名

概要：参加者全員が、これまでの経験にもとづいた添削の方針や方法を共有するために、実際に博士課程の留学生¹が書いた原稿（学会発表用草稿）を添削し、課題について話し合った。まずは20分と時間を定め、参加者全員がそれぞれのやり方で添削を行った。つぎに、各自の添削をもとに議論した。結果として、次の二つのやり方が浮き彫りになった：A 全体を見渡して、論文の主張や構造を見極め、それに応じたアドバイスを、B 前から順番

¹ 各ワークショップで利用した原稿は、教員やチューターがその都度ワークショップの趣旨を説明したうえで、留学生に原稿を提供していただいた。ご協力いただいた留学生に感謝する。

に読んで日本語で気になった箇所を修正していく。

論文チューター制度の性質上、論文の内容 (A) にまで踏み込まず、日本語の添削に集中する必要がある (B)。しかし、適切な添削を行うためには、書き手の主張を理解したうえで論文に相応しい文章に修正する必要がある。そのため実際には両者を区別することは難しく、一人でストレスを抱えこんでしまうチューターも多い。そこで、複数のチューターで作業をし、悩みの共有や相互のフィードバックにより、各チューターが自分のやり方を見つけられるよう、WS を継続していくこととした。

・第2回 日本語添削ワークショップ (2019年7月9日)

参加者：チューター経験者計3名、留学生専門教育教員1名

概要：留学生が実際に書いた文章（授業のための文献の要約）を用いて、参加者全員が添削を行った。今回は、全体の文章構成や内容には踏み込まず、なるべく日本語の文章添削のみに集中することにした。まずは20分間でそれぞれが添削し、その後、全体で気になった点などを議論した。さらに、二人でペアになってそれぞれの添削結果を確認した。

日本語のみのミニマルな添削を心がけていても、添削者によって添削箇所や内容にかなりの差が出ることがわかった（感覚的に、同じ添削をしている箇所は半分くらいで、それ以外は指摘箇所・内容ともに異なる）。用語の定義や統一について指摘するのかどうか、論理の流れまで踏み込むのか、意味が取れなかった文章に対してはどのように対応するか（翻訳や要約の場合は原典まで確認するのか）、等の論点が上がった。また、学習効果を高めるために、エラーをタイプごとに整理する「エラーログ」の導入も検討された。

・第3回 日本語添削ワークショップ (2019年7月23日)

参加者：現役チューターおよびチューター経験者等計7名、日本語教員2名、留学生専門教育教員1名

概要：まずは留学生が書いた学会発表用の草稿を用い、参加者全員が20分間添削を行った。その後、ペアになってお互いの添削を確認し、気づいた点について全員で共有した。その結果、チューターと日本語教員のあいだで、添削方法に違いがあることがわかった。チューターの添削においてはエラー箇所をすべて書き直すという方針が一般的であった。一方、日本語教員の添削においては、エラー箇所に下線を引いたり記号を入れたりしておいて、学習者の気づきを促すという手法が採られていた。そのさい、誤用のタイプによって、下線や記号を分類しておくという方法が共有された（例：助詞の誤用ならP、語彙ならVなど）。

終了後のアンケートでは、添削の教育的、技術的な側面についての情報が有益であったというコメントが多く、スキルアップに焦点を当てたWSが求められていることがわかった。今後は、いかに参加者を増やしながら、持続可能な形でWSを運営していくのが課題となる。

さらに参加した日本語教員から、添削に役立つ文献やオンライン・ツールも紹介された。これらの資料については、チューターや学習者が利用できるように、日本語添削室で所蔵することにした。

・第4回 日本語添削ワークショップ(2019年10月16日)

参加者:19名(主催者・発表者含む)

プログラム:

第1部 趣旨説明 田口陽子

第2部 「諸制約の中でのチューター実践」

- ① 対面チューター・時間制約の合理性の検討 大角洋平
- ② 頻発するエラーを採録する Error-log の紹介 大角洋平
- ③ 留学生の主体性を尊重する時間配分・依頼シートの提案 吉田聡宗
- ④ 日本語添削室チューターからのコメント 吉田真悟

第3部 ワークショップ(添削実践)

概要:第1部での制度の概要と課題が示されたのち、第2部では、まず大角洋平から、留学生のニーズ(校正、査読、教育)とチューター制度の制約(時間、能力、研究倫理、教育理念)のあいだの葛藤という枠組みが示された(資料①②③参照)。そのうえで、諸制約のもとでニーズを満たすための具体的な実践案の一つとして、「エラーログ」の活用が提案された(資料④)。エラーログを用いることで、個々のチューター(留学生)の誤用を類型化・記録化し、チューターの学習に役立てるとともに、チューターの作業量を削減することが期待される。続いて吉田聡宗から、チューター活動において、チューターが握りがちな主導権をチューターと共有するための手段として、「依頼シート」(資料⑤)が提案された。依頼シートには、論文の進捗状況、相談内容、利用時間の配分等に関する希望を記入する項目がある。このシートを活用することで、何をどこまで行うのかをチューター主体で決定し、ひいてはチューターのオーサシップの侵害とチューターの超過労働を予防することができる。

以上の提案を受けて、吉田真悟がコメントした。吉田からは、制度上の想定とは異なり、留学生も大学教員もチューターに「全文の校正」を期待している現状についての問題提起がなされた。そのうえで、日本語添削室での経験から、対面でのコミュニケーションを通じた添削の利点が紹介された。

第3部では、本WS恒例の添削体験が行われた。今回は、留学生が書いた日本語資料を実際に添削しながら、同時にエラーログをつけるという実験を行った。その後、参加者が相互に添削を共有し、意見交換を行った。

最後に、チューターの理念、制度、職務内容をめぐって全体ディスカッションが行われた。

論文チューターに求められていることは日本語の添削に限られ、論文の内容（論旨、論理構成）は指導教員に任せるべきものなのではないか？ チューター活動の内容は日本語教育であるので、日本語教育の専門家の支援が必要なのではないか？ チューターとチューターのあいだに生じる複合的な権力関係に配慮した制度設計が求められるのではないか？ 質疑応答を通して、今後のチューター制度改善にとって重要な教育・研究上の論点が提示された。

3. まとめと今後の課題

WSを開催したことで、個々のチューターによってチュータリングや文章添削のやり方に大きな差があることが分かった。本学では従来、研究科や学部ごとのチューターと留学生のマッチングが重視されており、個別のスキルやニーズに合ったチュータリングが行われていることは強みでもある。しかし、このことは一方で、チューターが既定の時間を超過して、論文の内容にまで踏み込み、書き直しともいえるような全面的な「校正」を行ってしまうという事態を生じさせていた。

第1回と第2回WSで明らかになったのは、チューターの役割は「論文の内容」ではなく「日本語の添削」であるという説明を共有していたとしても、その線引きをどこで行うのかについては、実際に原稿を添削するという作業を通してしか学びえないということだった。したがって、チューター活動開始時のオリエンテーションのみならず、チューター活動中においても、WSの開催を通してチューターと担当教職員のあいだで仕事内容を共有・確認し、適宜アドバイスする必要がある。

第3回WSでは、留学生の書いた原稿全文の「校正（書き直し）」を行おうとするチューターと、留学生自身に書き直し方を考えさせようとする日本語教員の添削方法の違いが浮き彫りになった。本学のチューター制度は、これまで留学生・海外留学相談室が担当し、留学生への支援や国際交流の観点から運営されてきた。しかし、WSを通して、チューターから日本語教育の知識やスキルが求められていることがわかった。

さらには、第4回WSの資料に反映されているように、チューター個人でさまざまなツールを開発したり、スキルを向上させてきたことが明らかになった。このような実践をチューター間で共有していくためには、チューター活動終了後に振り返りの機会を設け、先輩チューターの経験を新しいチューターに伝えていく試みの可能性も考えられるだろう。

今後は、本センター内の留学生・海外留学相談部門と日本語教育部門との連携を深めながら、さらには各研究科とも協力しながら、本学における日本語教育と専門教育の蓄積を留学生へのチュータリングに活用する方法を検討していきたい。

(田口陽子)

(参考) 日本語添削に役立つ資料



第4回ワークショップでは、チューター活動の資料が共有された。これらの資料は院生チューター有志が各自の経験に基づいて作成したものである。学内外のチューターに、各実践に応じたアレンジや改良を加えて役立ててもらえるよう、以下の資料を公開する。

資料作成協力チューター：大角洋平、吉田聡宗、吉田真悟

資料① チューター手順

チューター手順 (マッチング前後)		
時期	行うこと	狙い
マッチング直後	留学生側と次のことを確認する。 ・論文チューターがやれることの確認 ・執筆・引用スタイルの確認 ・読みにくい文章例の確認 ・論文の書き方本の紹介 ・日本語ツールの紹介	執筆前に助言を行っておくことで、作業量の圧縮を実現する。
▶ 数枚分を書いた段階	留学生側に早い段階で、対面で原稿を見せてもらい、次のことを行う(1時間程度)。 ・留学生側の日本語レベルの把握。 ・A4 一枚を添削してみて、所要時間を把握。 ・所要時間を留学生に伝達。 ・執筆・引用スタイルの再確認	・早い段階で日本語レベルを把握することで、日本語助言にかかる時間の目安をつける。 例：A4 用紙1枚(1500文字程度)に30分 修士論文15万字：3000分(50時間) 博士論文30万字：6000分(100時間) →キャパオーバーが予想される。 ∴作業方針を見直す or 留学生に時間配分の見直しを提示
以下は、実際のチューター活動例 (ブレインストーミング、日本語助言 etc.) ○お節介はオーサーシップの侵害、オーバーワークの原因となります。 お節介防止のためのアーキテクチャとして、以下が存在します。 ・対面作業：サービス残業の防止、早いレスによる作業量の圧縮。 ・業務時間の設定：時間制約を設置し、留学生による最適な時間配分の実現。 ・依頼書の提出：留学生による最適な時間配分の実現+依頼以外を行わないことでお節介の予防。		

資料② チューター実践案

日本語助言のチューター実践															
手順	作業	狙い													
① 対面	留学生と対面し、時計を置きます。	対面と時計により・・・ ・早いレスによる作業量の圧縮。 ・深読みによるオーサiership侵害予防。 ・対面外作業の禁止によりオーバーワークの予防。	 <p>論文チューター依頼シート チューター利用日(月 日 時)</p> <table border="1"> <tr> <td>① 資料の種類 <input type="checkbox"/>要旨 <input type="checkbox"/>本文 0 <small>(例: 第3章2節)</small></td> <td>② 直近の締切 <input type="checkbox"/>指導教員への提出締切 (月 日 時) <input type="checkbox"/>論文報告会 (月 日 時) <input type="checkbox"/>ゼミでの報告 (月 日 時)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">③指導教員に確認済の事項 <input type="checkbox"/>論文のテーマ <input type="checkbox"/>論文の内容(論旨、論理構成など) <input type="checkbox"/>形式(準拠するスタイル)</td> </tr> <tr> <td>④論文全体の進捗度自己評価 <input type="checkbox"/>0-20% <input type="checkbox"/>21-50% <input type="checkbox"/>51-80% <input type="checkbox"/>81-95% <input type="checkbox"/>95-100%</td> <td>⑤今回確認する資料の完成度 <input type="checkbox"/>0-20% <input type="checkbox"/>21-50% <input type="checkbox"/>51-80% <input type="checkbox"/>81-95% <input type="checkbox"/>95-100%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑥論文の骨子(例:問題意識、主張、根拠等を可能な範囲で簡単に書いてください*500文字程度)</td> </tr> <tr> <td>⑦依頼事項 <input type="checkbox"/>プレインストロミング <input type="checkbox"/>論理の確認 <input type="checkbox"/>日本語表現の助言 <input type="checkbox"/>引用形式の確認 <input type="checkbox"/>その他 0 <small>注:依頼された事項以外のごことは実施しません。 注:希望実施時間に応じて助言の質が変わります。</small></td> <td>⑧希望実施時間 <input type="checkbox"/> ()分 (残り利用可能時間 /34時間) 例 (90)分 (残り利用可能時間 32.5/34時間) <small>注:チューター作業は対面のみ認められています。 注:原稿を読む時間も、実施時間に含まれます。 原稿を読んでもらっている間は、再度自分で原稿を読んで、修正すべきポイントを自分で見つるようにしてください。</small></td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑨チューターへの要望など(どこを重点に見てほしいか等)</td> </tr> </table>	① 資料の種類 <input type="checkbox"/> 要旨 <input type="checkbox"/> 本文 0 <small>(例: 第3章2節)</small>	② 直近の締切 <input type="checkbox"/> 指導教員への提出締切 (月 日 時) <input type="checkbox"/> 論文報告会 (月 日 時) <input type="checkbox"/> ゼミでの報告 (月 日 時)	③指導教員に確認済の事項 <input type="checkbox"/> 論文のテーマ <input type="checkbox"/> 論文の内容(論旨、論理構成など) <input type="checkbox"/> 形式(準拠するスタイル)		④論文全体の進捗度自己評価 <input type="checkbox"/> 0-20% <input type="checkbox"/> 21-50% <input type="checkbox"/> 51-80% <input type="checkbox"/> 81-95% <input type="checkbox"/> 95-100%	⑤今回確認する資料の完成度 <input type="checkbox"/> 0-20% <input type="checkbox"/> 21-50% <input type="checkbox"/> 51-80% <input type="checkbox"/> 81-95% <input type="checkbox"/> 95-100%	⑥論文の骨子(例:問題意識、主張、根拠等を可能な範囲で簡単に書いてください*500文字程度)		⑦依頼事項 <input type="checkbox"/> プレインストロミング <input type="checkbox"/> 論理の確認 <input type="checkbox"/> 日本語表現の助言 <input type="checkbox"/> 引用形式の確認 <input type="checkbox"/> その他 0 <small>注:依頼された事項以外のごことは実施しません。 注:希望実施時間に応じて助言の質が変わります。</small>	⑧希望実施時間 <input type="checkbox"/> ()分 (残り利用可能時間 /34時間) 例 (90)分 (残り利用可能時間 32.5/34時間) <small>注:チューター作業は対面のみ認められています。 注:原稿を読む時間も、実施時間に含まれます。 原稿を読んでもらっている間は、再度自分で原稿を読んで、修正すべきポイントを自分で見つるようにしてください。</small>	⑨チューターへの要望など(どこを重点に見てほしいか等)	
① 資料の種類 <input type="checkbox"/> 要旨 <input type="checkbox"/> 本文 0 <small>(例: 第3章2節)</small>	② 直近の締切 <input type="checkbox"/> 指導教員への提出締切 (月 日 時) <input type="checkbox"/> 論文報告会 (月 日 時) <input type="checkbox"/> ゼミでの報告 (月 日 時)														
③指導教員に確認済の事項 <input type="checkbox"/> 論文のテーマ <input type="checkbox"/> 論文の内容(論旨、論理構成など) <input type="checkbox"/> 形式(準拠するスタイル)															
④論文全体の進捗度自己評価 <input type="checkbox"/> 0-20% <input type="checkbox"/> 21-50% <input type="checkbox"/> 51-80% <input type="checkbox"/> 81-95% <input type="checkbox"/> 95-100%	⑤今回確認する資料の完成度 <input type="checkbox"/> 0-20% <input type="checkbox"/> 21-50% <input type="checkbox"/> 51-80% <input type="checkbox"/> 81-95% <input type="checkbox"/> 95-100%														
⑥論文の骨子(例:問題意識、主張、根拠等を可能な範囲で簡単に書いてください*500文字程度)															
⑦依頼事項 <input type="checkbox"/> プレインストロミング <input type="checkbox"/> 論理の確認 <input type="checkbox"/> 日本語表現の助言 <input type="checkbox"/> 引用形式の確認 <input type="checkbox"/> その他 0 <small>注:依頼された事項以外のごことは実施しません。 注:希望実施時間に応じて助言の質が変わります。</small>	⑧希望実施時間 <input type="checkbox"/> ()分 (残り利用可能時間 /34時間) 例 (90)分 (残り利用可能時間 32.5/34時間) <small>注:チューター作業は対面のみ認められています。 注:原稿を読む時間も、実施時間に含まれます。 原稿を読んでもらっている間は、再度自分で原稿を読んで、修正すべきポイントを自分で見つるようにしてください。</small>														
⑨チューターへの要望など(どこを重点に見てほしいか等)															
② 依頼書の提出	依頼書の確認	依頼書を確認することで・・・ ・ニーズ/希望作業時間の厳守。 ・オーバーワーク/オーサiershipの侵害の原因となるお節介りの予防。 ・留学生による時間配分の最適化。													
③ 依頼書の確認	骨子・要旨の確認	要旨・骨子を把握します。 これで語彙選択、添削など助言の方針を立てます(スキーマの構築)。													
④ 時間計測	作業時間の概算	2000字あたりにかかる助言時間を計測します。 これにより添削や助言にかかる時間の目安を立てます。 そうすることで、助言・添削の質が決定されます。 *留学生には待機してもらっています。													
⑤ 助言の実施	メリハリをつけた助言	・修正例を提示しないことで、作業量の圧縮+自立支援へ。 例:SVのねじれ、コロケーションの誤り等は指摘のみ。 ・意味不明な部分は目の前にいる留学生に聞きます。 ∵深読みによりオーサiershipを害する危険性。 ・エラーログを作り、同じ間違いを犯す可能性を減少させます。													

エラーログ

原文	誤りの類型	解説	修正
本稿の目的は、死刑廃止論の根拠について検討することです。	文体の誤り	です/ますという文体は、論文では使いません。「である・だ」といった文体を用います。	本稿の目的は、死刑廃止論の根拠について検討することである。

資料③ 読み手にやさしくない論文を書くコツ！

読み手に優しくない論文を書くコツ！

文章表現編——「日常生活なら良くある間違い！」

- 論文なのに話し言葉で書いてみる。例：です、ます、と思います、などを使用する。
- 主題と述語を一致させない。

論文の形式編——「形式に囚われない。自由に書いてこそ心が伝わるのだ。」

- 研究目的：何を研究するのか？
- 研究の必要性：なぜそれを研究する必要があるのか？
- 研究の方法：どうやってそれを明らかにするのか、なんでその方法を使うのかを曖昧にした文章にする。
- パラグラフライティングを無視して書く。
- 各章／各節で何を書くのかを冒頭で書かない。

——「なんか論文の中身では勝負できなそうなので、見た目インパクトが欲しい。」

- 直接引用でもないのに「」をつけてみる。
- 筆者の意図を不明にしたまま【 】とか下線部を引いてみる。
- ！や！？をつけてインパクトをつけてみる。
- 文字サイズを変えてみる。

論文内容編——「読み手のおまえが頑張れ。とにかく読み手が頑張れ。私の意図はおまえが読み取れ。」

- 直接引用を連ねるだけ連ねて、筆者の評価を書かない。
- 権威に頼る論証を行う。
- 突然、話が移り変わってしまう文章を書く。例：節と節との間につなぎの文が無い。
- 何を論証する章・節なのかを明示しない文章にする。
- 研究目的と結論が一致していない文章にする。
- その分野では知られていない／もしくは新しく作った特殊な概念を説明せずに用いる。
- 一つの文章で、色々な読み方ができてしまう文章にする。

例：日本の大学生の勉強時間に関する調査によると、94.3%の学生が「1日あたり2,3時間」と解答しているが、その原因については全く不明で、この勉強時間は諸外国での平均値6時間より相当少なく、アメリカの大学生の平均値8時間とはかけ離れているが、その差がどうして生じているのかの実態調査が急務である。

*参照資料：名桜大学ライティングセンター「アカデミックライティング4回：一文一義で書く」

https://www.meio-u.ac.jp/support/assets/no4_ichibunichigi-gakusei.pdf
(2020年3月28日最終閲覧)

資料④ エラーログ

エラーログ

日付 :

執筆者 : _____

添削者 : _____

原文	誤りの類型	解説	修正
例) 本稿の目的は、死刑廃止論の根拠について検討することです。	例) 文体の誤り	例) です/ますという文体は、論文では使いません。「である・だ」といった文体を用います。	本稿の目的は、死刑廃止論の根拠について検討することである。

簡易チェックリスト

- 剽窃防止のために注はつけたか。
- 投稿規定に則しているか。
- 書式はそろっているか (半角/全角など)。
- パラグラフライティングに従って書かれているか。
- トピックセンテンスだけ読めば概略は掴めるようになっているか。
- 読み手に優しい文章であるか。
- 次の節・章に移る際に、つなぎの言葉を入れているか (論理の明確化)。
- 自説と引用を区別できるか。
- 文頭と文末の対応はとれているか。
- 用語は統一されているか。

資料⑤ 論文チューター依頼シート

論文チューター依頼シート 利用日時(月 日 時)

<p>①資料の種類</p> <p><input type="checkbox"/>要旨</p> <p><input type="checkbox"/>本文()</p> <p>*例:第3章2節</p>	<p>②直近の締切</p> <p><input type="checkbox"/>指導教員への提出締切(月 日 時)</p> <p><input type="checkbox"/>論文報告会(月 日 時)</p> <p><input type="checkbox"/>ゼミでの報告(月 日 限)</p> <p><input type="checkbox"/>その他()(月 日 限)</p>
<p>③指導教員に確認済の事項</p> <p><input type="checkbox"/>論文のテーマ <input type="checkbox"/>論文の内容(論旨、論理構成など) <input type="checkbox"/>形式(準拠する形式)</p>	
<p>④論文全体の進捗度自己評価</p> <p><input type="checkbox"/>0~20%(書き始め) <input type="checkbox"/>21~50% <input type="checkbox"/>51~80% <input type="checkbox"/>81~95% <input type="checkbox"/>96~100%(ほぼ完成)</p>	
<p>⑤論文の骨子(例:問題意識、主張、根拠等を簡単に書いてください*500文字程度)</p>	
<p>⑥依頼事項</p> <p><input type="checkbox"/>ブレインストーミング <input type="checkbox"/>論理の確認</p> <p><input type="checkbox"/>日本語表現の助言</p> <p><input type="checkbox"/>形式の確認(例:引用の仕方、参考文献の書き方、註の付け方... etc.)</p> <p><input type="checkbox"/>その他()</p> <p>注:依頼された事項以外は実施しません。</p> <p>注:業務量と時間に応じて助言の質が変わります。</p>	<p>⑦希望実施時間</p> <p><input type="checkbox"/> () 分(これまでの利用時間 /32時間)</p> <p>例(60)分(これまでの利用時間 2/32時間)</p> <p>注:チューター作業は対面のみ認められています。</p> <p>注:原稿を読む時間も、実施時間に含まれます。</p> <p>原稿を読んでもらっている間は、再度自分で原稿を読んで、修正ポイントを自分で見つけるようにしてください。</p>
<p>⑧チューターへの要望など(どこを重点に見てほしいか等)</p>	

チューター側チェック事項: ○分あたりに読める文字数、ページ数()。

留学生側の依頼事項に忠実なチューター作業を行ってください。

全文に及ぶ添削は想定されていません。時間厳守がオーサーシップの保護へと繋がります。

お節介はオーサーシップの侵害、オーバーワークの原因となります。チューターは論文執筆者ではありません。

資料⑥ 初年度チューター依頼シート

初年度チューター依頼シート

利用日時 (月 日 時)

<p>①相談の種類</p> <p><input type="checkbox"/>学習相談（講義名（ ） 担当教員（ ））</p> <p><input type="checkbox"/>レポート確認（講義名（ ） 担当教員（ ））</p> <p>提出締切（ 月 日 時 分）</p> <p>提出方法（<input type="checkbox"/>印刷した紙を提出 <input type="checkbox"/>web サイトへのアップロード <input type="checkbox"/>メール提出）</p> <p><input type="checkbox"/>レジュメ確認（講義名（ ） 担当教員（ ））</p> <p>発表日時（ 月 日 限）</p> <p><input type="checkbox"/>論文 <input type="checkbox"/>卒業論文 <input type="checkbox"/>修士論文 <input type="checkbox"/>博士論文 <input type="checkbox"/>投稿論文（投稿先： ）</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p>
<p>②形式についての指定の有無</p> <p><input type="checkbox"/>指定あり→教員の指定する形式をチューターに見せるようにしてください</p> <p><input type="checkbox"/>指定なし</p>
<p>③今回確認する資料の完成度</p> <p><input type="checkbox"/>0～20%（書き始め） <input type="checkbox"/>21～50% <input type="checkbox"/>51～80% <input type="checkbox"/>81～95% <input type="checkbox"/>96～100%（ほぼ完成）</p>
<p>④依頼事項</p> <p><input type="checkbox"/>ブレインストーミング <input type="checkbox"/>論理の確認 <input type="checkbox"/>日本語表現の助言</p> <p><input type="checkbox"/>形式の確認（引用の仕方、参考文献の書き方、註の付け方... etc.）</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>注：依頼された事項以外のことは実施しません。</p> <p>注：希望実施時間に応じて助言の質が変わります。</p>
<p>⑤希望実施時間</p> <p><input type="checkbox"/>（ ）分（これまでの利用時間 時間）</p>
<p>⑥チューターへの要望など（どこを重点に見てほしいか、何に困っているのか等）</p>

本資料は、より良いチュータリングのために保存されます。目的外の利用は致しません。
 チューター側チェック事項： ○分あたりに読める文字数、ページ数（ ）。

留学生側の依頼事項に忠実なチューター作業を行ってください。

お節介はオーサーシップの侵害、オーバーワークの原因となります。チューターは論文執筆者・資料作成者ではありません。

参考文献：佐渡島紗織・太田裕子(2013) 『文章チュータリングの理念と実践：早稲田大学ライティング・センターでの取り組み』 ひつじ書房